

校長室から応援メッセージ⑤

令和3年10月8日（金）

「人生は帳尻合わせではない」

皆さん、こんにちは。10月に入っても相変わらず暑い日が続きます。体調管理、そして勉強の進み具合はいかがでしょう。私は校長室に籠ってばかりで、皆さんと顔を合わせる機会が相変わらず少なく、こんなことではいけない、と反省しているところです。皆さんを応援している気持ちだけはどうか察してください。

先日〇〇高校の二学年集会に招かれ、話をする機会がありました。冒頭〇〇高校は私にとって入学の望みが叶わなかった高校、という随分昔の個人的な話をしました。私が受験する学区では複数の普通科高校で全体の合格者をまず決め、その後各高校に入学者を抽選で振り分けていました。それまでの〇〇高校と□□高校の二校に私の受験の年から△△高校が加わり三校での実施になりました。

私は〇〇高校、□□高校の順に希望しましたが、△△高校に振り分けられました。△△高校は当時女子高、上級生はセーラー服女子（セーラー服とわざわざ言うのに深い意味はありません）、私は男女共学一期生として入学することになりました。発表の掲示板を見てショックを受け、祖母が「うちの孫はコタツにもぐったきり出てこない」と近所の人に何度も話しているのを聞き、これも別の意味でショックでした。

ブツブツ言いながら入学しても、通い始めればそれなりに3年間を楽しく過ごし、△△高校を卒業しました。教員になってからも〇〇高校や□□高校には縁がなく、△△高校には4回勤務しました。第三志望の高校が私にとって一番身近な高校になり、今ではかつて入学試験で振り分けられた結果に感謝しています。

希望とは関係なく振り分けられ、そのことにあとで感謝する。これは貴重な経験でした。同じ学校に何度もお世話になるという偶然が重なり、たまたま帳尻が合ったにすぎないのかもしれませんが。希望通りの場でも苦労はたくさんあります。自分で選んだ場所だからこそ困難に陥ったとき言い訳ができなくて苦しい、ということもあります。帳尻を合わせるというのはたいへん難しいことです。

でも人生の帳尻って一体何でしょう。そもそも帳尻を合わせるために私たちは生きているわけではありません。今の自分を生きる、それだけです。何かに打ち込む人の姿は美しいといいます。私は日々机に向かって勉強に専念している皆さんの姿は本当に美しいと思います。私たちが何かを目指す、その何かとは、頑張っている、今の自分を懸命に生きるための、方便なのではないかと思います。

皆さん、共通テストまで100日を切りました。自分を信じて頑張ってください。自分を信じるとは、目標に向かって最後の最後まで頑張れる、そういう自分を信じることです。どんな状況にあってもいつも前を向いて生きていける、そういう自分であると信じることです。日々、心穏やかに黙々と机に向かい続ける皆さんを、これからも私は校長室に籠って静かに応援したいと思います。